

学力向上に係る効果的事例

【八潮市教育委員会】

1 基礎・基本の定着

- (1) 国語、数学、英語の3教科において、毎朝15分間、八潮 Basic の問題を活用した級別基礎学習（8回練習課題、9回目に級認定テスト）を実施し、指導後に再テストも実施している。
- (2) 数学科の授業において、少人数TT指導を実施している。
- (3) 夏休みの前半の1週間と後半の1週間に、希望者を中心に夏休みの学習教室（補習授業）を実施し、基礎学力の向上を図った。
- (4) 中学生が、小学校の夏休み学習教室にリトルティーチャーとして参加した。積極的に参加を希望する生徒が多く、学び直しのよい機会となっている。
- (5) 5教科において、「夏休み明け課題テスト」を実施している。数学科では、更に冬休み、春休み明けにも課題テストを実施している。（市内統一）
- (6) 定期テスト前に、学習教室を実施している。



【級認定テスト】



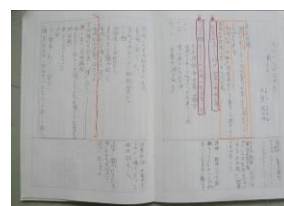
【リトルティーチャー】

2 思考力・判断力・表現力の育成

- (1) 声や文字に表れる言語だけでなく、頭の中で思考する活動が重要であると捉え、各教科において、「考える時間（考えタイム）」を設定した。
- (2) 国語科では、「書く場面」を意図的に設定している。「〇〇だから自分は△△と考える」という、根拠を明らかにした表現活動に取り組んでいる。
- (3) 数学科では、「話し合い・発表の仕方」についての指導を工夫した。話し合いの進め方や発表に使う言葉、発表の方法などを繰り返し指導することで、自信を持って発表する姿が見られるようになった。

3 小中一貫教育の取組

- (1) 八潮市小中単元配列表を参考に、学習指導案には小中一貫教育の視点を記載し、各教科とも9年間の系統性を意識した指導を展開している。
- (2) 国語科では、小・中学校でノートの書き方の統一を図った。小学校低学年はマス目ノート、高学年からは縦罫線ノートを使用している。更に、本時の課題、流れ、辞書を活用した言語事項を記入する欄も統一した。
- (3) 英語科では、ALTと連携して小学校での活動内容やつまずきを把握し、中学校1年生での円滑な接続を図っている。また、小学生の英語に対する興味や中学校での英語の授業への期待を高めることをねらいに、中学生が小学生に英語の絵本の読み聞かせを行っている。
- (4) 学びの連続性を図るために、理科と音楽の授業では、小・中学校の教員によるTT授業を実施している。
- (5) 〇〇中ブロックの小中3校で、「時間を守る」「ていねいな言葉づかい」「あいさつ」「そうじ」の4観点、8項目で、「生活振り返りシート」を実施している。生活態度を落ち着かせ、それを授業中の学習に向かう姿勢につなげることをねらいに実施し、その効果が、徐々に現れてきている。



【国語ノート】



【英語読み聞かせ録音】



【小中教員の音楽のTT】